

秋の特集② 糸島の「秋」を楽しむ

工房が集まる芸術のまち

以前から「志摩の五月」で工房巡りが行われていたように、市内には数多くの工房があります。木工や陶芸だけでなく、染色や彫金など分野は幅広く、それぞれに創作活動が行われています。

市内に住んでいた人もいますが、創作活動の場として糸島を選び、居住した人が大半です。大消費地・福岡市に近く、条件が良いということもあるかもしれませんが、それだけではなく、それだけではないようです。

ここでは、工房で創作活動をする人たちのお話を聞きながら、なぜ、この地で創作活動の場を選んだかなど、以前から住んでいる私たちには見えない、糸島の魅力を探ってみました。

陶工

糸島の海のイメージを作品に取り入れています

児島 和孝さん(志摩桜井)

4年前に、糸島に工房を構えました。以前は北関東に住んでいましたが、両親が福岡にいたこともあり、海が近くにある糸島を選びました。糸島は周りを海に囲まれ、いろんな表



波をイメージしたデザイン

情の海を見ることが出来ます。自然にあふれ、福岡市にも近いという立地は魅力的です。

工房では、陶器を作っています。糸島の海の風景を、波をイメージした渦巻き模様として作品のデザインに取り入れています。

今年も開催した「糸島クラフトフェス」。最初、工房仲間と「1年に1度のイベントに多くの人に来ていただければ、ファンを増やすきっかけになる」と始めた催しです。

定着するまで10年はかかると思っていました。が、予想以上に人気が高く、毎年たくさんのお客さんに楽しんでいただいています。

しかし一方で、市内には多くの工房が点在しており、場所が分かりづらく、お客さんを目的の工房に誘導する工夫が必要です。

看板作りなど、技術を持った仲間がたくさんいます。糸島を訪れた人たちにもっと糸島を好きになってもらうためにも、行政のバックアップを望んでいます。

ろうそく

ろうそく工房 クレアーレ



工房で作品の制作に取り組む副島さん

自然をモチーフにした作風になりました

副島 史絵さん(志摩松隈)

市内に工房を構えたのは、ちょうど10年前。それまでは、福岡市内で創作活動をしていました。工房では型をデザインし、1個1個のろうそくを作っています。

工房で作るろうそくは、形はもちろん、火を灯したときの光や影を楽しむもので、東京や大阪など、遠方からお求めに来られるお客さんもいらつしやいます。

糸島に工房を構えたのは「志摩の五月」に訪れたことがきっかけです。自然に囲まれ、空気も水もきれいで、地域のみなさんの人柄が良かったこと。また、福岡市とのアクセスも良く、まち全体で工房を応援してくれている雰囲気があったからです。

自然の中でのもの作り、特に、糸島の自然は創作意欲をかき立ててくれます。糸島の自然をモチーフにした作品が多くなり、作風も変わりました。二見ヶ浦の夕日をモチーフにした作品は、とても人気があります。

糸島にはたくさん工房があり、それぞれが努力していくことが最もたいせつです。まちづくりに、市内にたくさんある工房を生かせば糸島の魅力を、全国に情報発信する大きな力になると思います。



二見ヶ浦をイメージした作品

出店した50の工房

第3回 糸島クラフトフェス開催

9月23日から25日までの3日間、志摩中央公園で糸島クラフトフェスが開催され、陶芸や木工、草木染めなど、市内にあるおよそ50の工房が出店しました。

また、24日には夜のイベントとしてコンサートが行われ、連日たくさんの人でにぎわいました。

今年で3回目を迎えるこの催しも、年々、来場者が増え、糸島のイベントの一つとして定着してきました。

会場には、地元食材を使ったお店も並び、来場者は糸島の「秋」を満喫していました。



ろうそくの明かりの中でのコンサート

木工

美しい海と豊かな自然は糸島の最大の魅力です

石黒 宣昭さん(志摩久家)

木工の工房を、糸島に構えて10年目。以前は横須賀市に住み、都内に勤めていました。長く勤めた会社でしたが「何か別の仕事をしてみたい」と思い、56歳で会社を退職。鎌倉市で



流木を材料に作られたベンチ

木工を学びました。

横須賀に住む必要もなくなり、海の近くに住みたいと、妻の実家の近くで見つけたのがこの場所でした。当時は糸島に、たくさん工房があるとは知りませんでした。

美しい海と豊かな自然は、都会暮らしが長かった私にとっては最高のものでした。糸島に住みたいというお客さんも多く、恵まれた自然は糸島の大きな魅力です。しかも福岡市に近く、都会の刺激を受けながら生活できるのも糸島の素晴らしいところ。

将来の糸島のまちづくりの根底にあるのは「自然」だと思います。また、糸島の自然に惚れ込み、たくさんさんの工房が集まっていることも、まちづくりのいい材料です。

10年前から、お客さんが工房を探しにくいというのが、工房仲間の悩みです。これまでマップを作るなど、工夫してきました。今後問題解決に取り組めます。行政からも後押しがあるとうれしいですね。

木工小屋 KEYAKI



材料の木材に墨入れをする石黒さん